共通のポリシー

- AddContactProtocolRateLimit （4 ページ）
- AddContactProtocolTimeLimit （4 ページ）
- AlertOnAvailableEnabled （4 ページ）
- BlockAccessoriesManagerPlugins （4 ページ）
- BlockVersionBelow （5 ページ）
- CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled （5 ページ）
- CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema （5 ページ）
- ClickToCallProtocolPermissionEnabled （6 ページ）
- ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled （6 ページ）
- CommonCriteriaEndCallTimeout （7 ページ）
- CTIWindowBehaviour （7 ページ）
- DeskPhoneModeWindowBehavior （7 ページ）
- DetailedLogDurationDesktop （8 ページ）
- DetailedLogDurationMobile （8 ページ）
- DiagnosticsToolEnabled （8 ページ）
- Disable_MultiDevice_Message （9 ページ）
- DisableVoicemailSentBox （9 ページ）
- Disallow_File_Transfer_On_Mobile （9 ページ）
- EnableAccessoriesManager （10 ページ）
- EnableADLockPrevention （10 ページ）
- EnableBFCPVideoDesktopShare （10 ページ）
- EnableCallPickup （11 ページ）
- EnableCiscoChatProtocol （11 ページ）
- EnableCiscoIMGroupProtocol （11 ページ）
- EnableCiscoIMProtocol （12 ページ）
- EnableCiscoTelConfProtocol （12 ページ）
- EnableCiscoTelProtocol （12 ページ）
- EnableClickToCallProtocol （12 ページ）
- EnableDualConnections （13 ページ）

- EnableForensicsContactData （13 ページ）
- EnableGroupCallPickup （13 ページ）
- EnableHuntGroup （14 ページ）
- EnableIMProtocol （14 ページ）
- EnableLocalAddressBookSearch （14 ページ）
- EnableLotusNotesCLibrarySupport （15 ページ）
- EnableLotusNotesContactResolution （15 ページ）
- EnableMediaStatistics （16 ページ）
- EnableOtherGroupPickup （16 ページ）
- EnableP2PDesktopShare （16 ページ）
- EnableProfileProtocol （17 ページ）
- EnablePromoteMobile （17 ページ）
- EnableProvisionProtocol （18 ページ）
- [RecordingTone の有効化（EnableRecordingTone）] （18 ページ）
- EnableSaveChatToFile （18 ページ）
- EnableShareProtocol （19 ページ）
- EnablesSendLogsViaEmail （19 ページ）
- EnableSIPProtocol （19 ページ）
- EnableSIPURIDialling （20 ページ）
- EnableStatusProtocol （20 ページ）
- EnableTelephonyProtocolRateLimit （20 ページ）
- EnableTelProtocol （21 ページ）
- EnableTelProtocolPopupWindow / CiscoTelProtocolPermissionEnabled （21 ページ）
- EnableVideo （21 ページ）
- EnableVoicePush （22 ページ）
- EnableXMPPProtocol （22 ページ）
- FCM_Push_Notification_Enabled （22 ページ）
- ForceC2XDirectoryResolution （23 ページ）
- ForceDevicePin （23 ページ）
- ForceFontSmoothing （23 ページ）
- ForceUpgradingOnMobile （24 ページ）
- Inactive_Connection_Activation_Timer （24 ページ）
- InitialPhoneSelection （24 ページ）
- InstantMessageLabels （25 ページ）
- InvalidCredentialsLogout （25 ページ）
- LegacyOAuthLogout （26 ページ）
- LocalRecordingToneVolume （26 ページ）
- LogWritingDesktop （26 ページ）
- LogWritingMobile （27 ページ）
- MaxNumberOfFilesDesktop （27 ページ）
- MaxNumberOfFilesMobile （28 ページ）

- Meetings_Enabled （28 ページ）
- MuteAudioByDefault （28 ページ）
- NearEndRecordingToneVolume （28 ページ）
- Prefer_BIB_Recorder （29 ページ）
- PresenceProtocolRateLimit （29 ページ）
- PresenceProtocolTimeLimit （29 ページ）
- PreventDeclineOnHuntCall （29 ページ）
- PrintIMEnabled （30 ページ）
- ProfileProtocolRateLimit （30 ページ）
- ProfileProtocolTimeLimit （30 ページ）
- ProvisionProtocolRateLimit （31 ページ）
- ProvisionProtocolTimeLimit （31 ページ）
- Push_Notification_Enabled （31 ページ）
- Recent_Chats_Enabled （31 ページ）
- RecordingToneInterval （32 ページ）
- RememberChatList （32 ページ）
- RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices （32 ページ）
- RemotePRTServer （33 ページ）
- SaveLogToLocal （33 ページ）
- ScreenShareAuditMessages （33 ページ）
- selfcareURL （34 ページ）
- SelfMuteTone （34 ページ）
- ServiceDiscoveryExcludedServices （34 ページ）
- ServicesDomainSsoEmailPrompt （35 ページ）
- SharePortRangeSize （35 ページ）
- SharePortRangeStart （35 ページ）
- ShareProtocolRateLimit （36 ページ）
- ShareProtocolTimeLimit （36 ページ）
- ShowSelfCarePortal （36 ページ）
- SoftPhoneModeWindowBehavior （37 ページ）
- TelemetryCustomerID （37 ページ）
- TelemetryEnabled （37 ページ）
- TelemetryEnabledOverCellularData （38 ページ）
- Telephony_Enabled （38 ページ）
- TelephonyProtocolRateLimit （38 ページ）
- TelephonyProtocolTimeLimit （39 ページ）
- UserDefinedRemoteDestinations （39 ページ）
- UserEnabledDetailedLogging （39 ページ）
- Voicemail_Enabled （40 ページ）
- VoiceServicesDomain （40 ページ）
- WhitelistBot （40 ページ）

AddContactProtocolRateLimit

Synergy デバイスの Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがURL付きの連絡先を連絡先リストに追加した後に相互起動できる回数を指定します。Add Contact スキーマを使用して、ユーザの連絡先リストに URL 付きの連絡先を追加できます（contact= username@cisco.com など）。たとえば、AddContactProtocolRateLimit が 3 で、AddContactProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは、15 秒ごとに 3 回、Cisco Jabber で Add Contact スキーマを相互起動できます。

1 ～ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例：`<AddContactProtocolRateLimit>10</AddContactProtocolRateLimit>`

AddContactProtocolTimeLimit

Synergy デバイスの Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが URL 付きの連絡先を連絡先リストに追加した後に相互起動できる制限時間を指定します。1 ～ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例：`<AddContactProtocolTimeLimit>10</AddContactProtocolTimeLimit>`

AlertOnAvailableEnabled

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがアベイラビリティ ウォッチ リストに連絡先を追加できるようにします。

- true（デフォルト）：ユーザはアベイラビリティ ウォッチ リストに連絡先を追加できます。
- false：ユーザは、アベイラビリティ ウォッチ リストに連絡先を追加することができません。

例：`<AlertOnAvailableEnabled>false</AlertOnAvailableEnabled>`

BlockAccessoriesManagerPlugins

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Jabra や Logitech などのサード パーティ ベンダ製の特定のアクセサリ マネージャ プラグインを無効にします。プラグイン DLL ファイルの名前を値として設定してください。複数の値はカンマで区切ります。

Microsoft Windows の例：

```
<BlockAccessoriesManagerPlugins> JabraJabberPlugin.dll,lucpcisco.dll
</BlockAccessoriesManagerPlugins>
```

BlockVersionBelow

すべてのクライアントに適用されます。

管理者は、ユーザがログインできるクライアントのうち、12.9 (0) よりも後のリリースを指定できます。このパラメータを設定した後、Jabberはリリース12.9以降に、指定されたリリースよりも前のリリースのユーザがログアウトするように強制します。クライアントをアップグレードするための指示が表示されます。

重要 このパラメータは、リリース 12.9 の転送からの Jabber クライアントのみで認識されます。たとえば、リリース 12.8 (1) クライアントがこのパラメータを `jabber-config`で読み取る場合、クライアントはこれを無視します。したがって、このパラメータは、ユーザがリリース 12.9 のクライアントを少なくともインストールした後にのみ有効になります。

Updateurlパラメータを使用してユニファイドコミュニケーションマネージャの TFTP サーバの自動更新 Jabber を使用すると、Jabber は BlockVersionBelowを無視します。

例：

```
<BlockVersionBelow>12.9.1</BlockVersionBelow>
```

また、ForceUpgradingOnMobileを使用して、Androidユーザに最新バージョンへのアップグレードを強制することもできます。BlockVersionBelowは、ユーザがデバイス上で autoupgrading を無効にできるようにする BYOD 展開でより効果的です。

CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

コールが終了したときに、元のアプリケーションに戻るかJabberに留まるかをユーザに確認するダイアログボックスを表示するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：ダイアログボックスが表示されます。
- false：ダイアログボックスは表示されません。

例：

```
<CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled>false</CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled>
```

CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザは、元のアプリケーションの起動に使用される URL にパラメータを指定できます。CrossLaunchBackSchema は、相互起動できる許可アプリケーション スキーマのホワイト リストです。各スキーマに追加のパラメータを指定して、そのパラメータを使ってアプリケーションを起動できます。元のアプリケーションを起動するためのスキーマに特定のパラメータを設定できます。たとえば、http に対して Webサイト「www.cisco.com」を設定できます。スキーマと追加パラメータを指定した後、追加のスキーマを指定するにはセミコロンを使用します。

- none（デフォルト）：リストはありません。
- *schema_names*：許可されたアプリケーション タイプをセミコロンで区切ったリスト。

例：`<CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema>AppSchema1://parameter1; AppSchema2</CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema>`

ClickToCallProtocolPermissionEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ダイアログボックスを有効にするか無効にするかを指定します。このダイアログボックスは、ユーザが `clicktocall: uri` リンクをクリックした後、Cisco Jabber を使用してコールを発信するかどうかを確認するための情報を提供します。

- true（デフォルト）：ダイアログボックスが有効になり、Cisco Jabber を使用してコールを発信するかどうか、ユーザに確認を求めます。
- false：ダイアログボックスが無効になり、確認を求めることなくコールが発信されます。

例：`<ClickToCallProtocolPermissionEnabled>false</ClickToCallProtocolPermissionEnabled>`

ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ダイアログボックスを有効にするか無効にするかを指定します。このダイアログボックスは、ユーザが `clicktocall: uri` リンクをクリックした後、Cisco Jabber を [編集してコール（Call with edit）] オプションに使用するかどうかを確認するための情報を提供します。

- true（デフォルト）：ダイアログボックスが有効になり、Cisco Jabber を [編集してコール（Call with edit）] オプションに使用するかどうかユーザに確認を求めます。
- false：ダイアログボックスが無効になり、確認を求めることなくコールが発信されます。

例：
`<ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled>false</ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled>`

CommonCriteriaEndCallTimeout

Windows 版 Cisco Jabber、iPhone および iPad 版 Cisco Jabber および、Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

CC_MODE のインストール引数または EMM パラメータを展開することによって、共通基準モードでJabber が実行されている必要があります。CC_MODE を展開すると、CommonCriteriaEndCallTimeout パラメータが自動的に有効になります。これによって、アクティブな通話中に、ユーザが別の発信者から特定の期間にメディアデータを受信しなかった場合、その通話は自動的に終了します。デフォルト値を 300 秒に変更することができます。

例: `<CommonCriteriaEndCallTimeout>60</CommonCriteriaEndCallTimeout>`

CTIWindowBehaviour

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがデスク フォン制御モード（CTI モード）でコールに応答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- OnCall（デフォルト）：コールへの応答時に常に [会話（Conversation）] ウィンドウが表示されます。
- Never：コールへの応答時に [会話（Conversation）] ウィンドウは表示されません。

Windows 版 Cisco Jabber の以前のバージョンでこのパラメータを設定した場合は、このリリースでも引き続き使用できます。ただし、代わりに DeskPhoneModeWindowBehavior パラメータを使用することを推奨します。

例：`<CTIWindowBehaviour>Never</CTIWindowBehaviour>`

DeskPhoneModeWindowBehavior

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがデスクフォン制御モード（CTI モード）でコールに応答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- OnVideo：[会話（Conversation）] ウィンドウはビデオ コールに対してのみ表示されます。
- OnCall（デフォルト）：コールへの応答時に常に [会話（Conversation）] ウィンドウが表示されます。
- Never：コールへの応答時に [会話（Conversation）] ウィンドウは表示されません。

例：`<DeskPhoneModeWindowBehavior>Never</DeskPhoneModeWindowBehavior>`

DetailedLogDurationDesktop

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

LogWritingDesktop パラメータに値 UserCanEnable を設定すると、デスクトップ クライアントがディスクにログを書き込む時間数を定義できます。定義した期間が経過すると、すべてのログがディスクから消去されます。

このパラメータの値を指定しない場合（デフォルト）、クライアントはログをディスクに無期限で書き込むか、またはユーザが詳細ロギングを無効にするまで書き込みます。

例：`<DetailedLogDurationDesktop>10</DetailedLogDurationDesktop>`

DetailedLogDurationMobile

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

LogWritingMobile パラメータに値 UserCanEnable を設定すると、モバイル クライアントがディスクにログを書き込む時間数を定義できます。定義した期間が経過すると、すべてのログがディスクから消去されます。

このパラメータの値を指定しない場合（デフォルト）、クライアントはログをディスクに無期限で書き込むか、またはユーザが詳細ロギングを無効にするまで書き込みます。

例：`<DetailedLogDurationMobile>10<DetailedLogDurationMobile>`

DiagnosticsToolEnabled

Windows 版 Jabber に適用されます。

12.8 (2) 以前の Windows 版 Jabber リリースでは、Jabber 診断ツールを無効にできるのは、DIAGNOSTICSTOOLENABLEDインストール引数が false に設定されたクライアントをインストールすることによってのみです。

リリース 12.8 (2) には、jabber-configのツールを無効にするための`DiagnosticsToolEnabled`パラメータを追加し ます。

- true（デフォルト）：ユーザは、Ctrl キーと Shift キーを押した状態で D キーを入力して、Jabber 診断ツールを表示できます。
- false：ユーザは Jabber 診断ツールを利用できません。

例: `< DiagnosticsToolEnabled > false </DiagnosticsToolEnabled >`

Disable_MultiDevice_Message

クラウドおよびオンプレミスの展開に含まれるすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

複数のデバイスのメッセージング機能を無効にします。

- true：複数デバイス メッセージング機能を無効にします。
- false（デフォルト）：複数デバイスメッセージング機能が有効です。ユーザは、サインインしているすべてのデバイスのすべての送信メッセージと受信メッセージを確認できます。

（注） 複数デバイス メッセージングはファイル転送または画面キャプチャをサポートしていません。ファイルは、ファイルを送信または受信したアクティブなデバイスでのみ使用できます。

例：

```
<Disable_MultiDevice_Message>true</Disable_MultiDevice_Message>
```

DisableVoicemailSentBox

すべてのクライアントに適用されます。

リリース 12.8 では、受信した voicemails をビジュアルボイスメールで表示するためのオプションがユーザに追加されました。クライアントは、サーバに定期的に要求して、[**送信済み (Sent)] ボックスを更新し** ます。このようなトラフィックを排除するには、DisableVoicemailSentBoxを使用し て**送信**ボックスを無効にし ます。

- true: **送信**ボックスを無効にします。
- false (デフォルト): **送信**ボックスを無効にしません 。

例: `< DisableVoicemailSentBox> true </DisableVoicemailSentBox>`

Disallow_File_Transfer_On_Mobile

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがモバイル上でファイルを送受信できるかどうかを指定します。

- true：ユーザはモバイルでファイルを送受信できません。
- false（デフォルト）：ユーザはモバイルでファイルを送受信できます。

例：`<Disallow_File_Transfer_On_Mobile>true</Disallow_File_Transfer_On_Mobile>`

EnableAccessoriesManager

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントのアクセサリ API を有効にします。この API は、アクセサリのベンダーがヘッドセットなどのコール管理機能を有効にするプラグインを作成できるようにします。

- true（デフォルト）：アクセサリ API を有効にします。
- false：アクセサリ API を無効にします。

（注） false に設定すると、一部のヘッドセットの通話制御ボタンが動作しません。

例：`<EnableAccessoriesManager>false</EnableAccessoriesManager>`

EnableADLockPrevention

すべてのクライアントに適用されます。

管理者は、失敗したサインイン試行の最大数に対して Active Directory サーバを設定することができます。この設定によって、一部の Jabber 展開で、誤ってアカウントがロックされる場合があります。例えば、SSO 認証のない展開では、すべての Jabber サービスが、同じ誤ったログイン情報を AD サーバーに送信することができ、これにより、失敗回数が急速に増加します。

この問題が発生した場合は、EnableADLockPrevention を使用して、同じ誤ったログイン情報を AD サーバーに送信されないようにすることが可能です。使用できる値は次のとおりです。

- true: Jabber は、1 つのサービスが無効なログイン情報エラーを受信した後に、同じログイン情報を持つすべてのサービスを停止します。
- false (デフォルト): Jabber は、無効なログイン情報エラーを無視し、引き続きサインインを試行します。

例: `<EnableADLockPrevention>true</EnableADLockPrevention>`

EnableBFCPVideoDesktopShare

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

BFCP ビデオ デスクトップ共有機能を有効にします。詳細については、『*Planning Guide for Cisco Jabber*』の「*Screen Share*」の章を参照してください。

- true（デフォルト）：クライアント上の BFCP ビデオ デスクトップ共有を有効にします。
- false：BFCP ビデオ デスクトップ共有を無効にします。

例：`<EnableBFCPVideoDesktopShare>false</EnableBFCPVideoDesktopShare>`

EnableCallPickup

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが自分のコール ピック アップ グループ内のコールをピックアップできるかどうか指定します。

- true：コール ピックアップを有効にします。
- false（デフォルト）：コール ピックアップを無効にします。

例：`<EnableCallPickup>true</EnableCallPickup>`

EnableCiscoChatProtocol

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを ciscochat: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは ciscochat: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは ciscochat: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableCiscoChatProtocol>false</EnableCiscoChatProtocol>`

EnableCiscoIMGroupProtocol

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを ciscoimgroup: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは ciscoimgroup: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは ciscoimgroup: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableCiscoIMGroupProtocol>false</EnableCiscoIMGroupProtocol>`

EnableCiscoIMProtocol

Android 版 Cisco Jabber、iPhone 版 Cisco Jabber 、iPad 版 Cisco Jabber、および Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを ciscoim: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは ciscoim: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは ciscoim: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableCiscoIMProtocol>false</EnableCiscoIMProtocol>`

EnableCiscoTelConfProtocol

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを ciscotelconf: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは ciscotelconf: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは ciscotelconf: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableCiscoTelConfProtocol>false</EnableCiscoTelConfProtocol>`

EnableCiscoTelProtocol

Android 版 Cisco Jabber、iPhone 版 Cisco Jabber 、iPad 版 Cisco Jabber、および Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを ciscotel: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは ciscotel: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは ciscotel: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableCiscoTelProtocol>false</EnableCiscoTelProtocol>`

EnableClickToCallProtocol

Android 版 Cisco Jabber、iPhone 版 Cisco Jabber 、iPad 版 Cisco Jabber、および Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを clicktocall: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは clicktocall: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは clicktocall: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableClickToCallProtocol>false</EnableClickToCallProtocol>`

EnableDualConnections

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントがプライマリ ノードへのアクティブな接続およびバックアップ ノードへの非アクティブな接続を確立できるようにします。

- true—デュアル接続を有効します。
- false (デフォルト)— デュアル接続は無効です。

例： `<EnableDualConnections>True</EnableDualConnections>`

EnableForensicsContactData

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

連絡先に関連する問題を報告する際、ユーザの連絡先フォルダが Problem Reporting Tool（PRT）によって収集されるかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：連絡先フォルダが PRT ツールによって収集されます。
- false：連絡先フォルダは RRT ツールによって収集されません。

例：`<EnableForensicsContactData>false</EnableForensicsContactData>`

EnableGroupCallPickup

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

コール ピック アップ グループ番号を入力して、ユーザが別のコール ピックアップ グループの着信コールをピックアップできるかどうか指定します。

- true：グループ コール ピック アップを有効にします。
- false（デフォルト）：グループ コール ピックアップを無効にします。

例：`<EnableGroupCallPickup>true</EnableGroupCallPickup>`

EnableHuntGroup

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザがハント グループにログインできるかどうか指定します。

- true：ユーザは、ハント グループにログインできます。
- false（デフォルト）：ユーザはハント グループにログインできません。

例：`<EnableHuntGroup>true</EnableHuntGroup>`

EnableIMProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを im: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは im: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは im: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableIMProtocol>false</EnableIMProtocol>`

EnableLocalAddressBookSearch

Windows 版 Cisco Jabber および モバイルクライアントに適用されます。

ユーザがローカルの連絡先を検索できるかどうかを指定します。Jabber Windows クライアントでは、ユーザはこれらのローカル連絡先を連絡先リストに追加することもできます。

- true（デフォルト）: ユーザは連絡先を検索できるようになります。
- false: ユーザは連絡先を検索することはできません。

モバイルクライアント (電話専用モード) の場合、Jabber が開始すると、すべてのローカル連絡先が Jabber の連絡先リストにインポートされます。ユーザに対してこの設定を無効にするオプションがあります。

例：`<EnableLocalAddressBookSearch>false</EnableLocalAddressBookSearch>`

（注） これらのパラメータは、カレンダー統合と連絡先解決のために効果を発揮します。

- CalendarIntegrationType
- EnableLocalAddressBookSearch
- EnableLotusNotesContactResolution

詳細に関しては、*Feature Configuration for Cisco Jabber* ガイドを参照してください。

EnableLotusNotesCLibrarySupport

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

IBM Lotus Notes で C Library を使用するかを指定します。

- true (デフォルト): Notes C Library
- false: Notes C++ Library

例: <EnableLotusNotesCLibrarySupport>true</EnableLotusNotesCLibrarySupport>

EnableLotusNotesContactResolution

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがローカル IBM Notes 連絡先を検索して自分の連絡先リストに追加できるようにします。

- true：ユーザは、IBM Notes のローカル連絡先を検索し、自分の連絡先リストに追加できます。

  （注） EnableLocalAddressBookSearch パラメータも true に設定する必要があります。

- false（デフォルト）：ユーザは IBM Notes のローカル連絡先を検索することも、自分の連絡先リストに追加することもできません。

例：`<EnableLotusNotesContactResolution>true</EnableLotusNotesContactResolution>`

（注） これらのパラメータは、カレンダー統合と連絡先解決のために効果を発揮します。

- CalendarIntegrationType
- EnableLocalAddressBookSearch
- EnableLotusNotesContactResolution

詳細に関しては、*Feature Configuration for Cisco Jabber* ガイドを参照してください。

EnableMediaStatistics

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

コール中のリアルタイム音声およびビデオ統計情報の表示を許可します。

- true（デフォルト）：コール中にリアルタイム音声およびビデオ統計情報を表示できます。
- false（デフォルト）：コール中にリアルタイム音声およびビデオ統計情報を表示できません。

例：`<EnableMediaStatistics>FALSE</EnableMediaStatistics>`

EnableOtherGroupPickup

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが、自分のコール ピック アップ グループに関連付けられたグループ内の着信コールをピックアップできるかどうか指定します。

- true：別グループ コール ピック アップを有効にします。
- false（デフォルト）：別グループ コール ピックアップを無効にします。

例：`<EnableOtherGroupPickup>true</EnableOtherGroupPickup>`

EnableP2PDesktopShare

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザは、通話中でない場合に、画面を共有できます。

- true（デフォルト）：ユーザは画面を共有できます。
- false：ユーザは一対一画面共有を実行できません。

例：`<EnableP2PDesktopShare>false</EnableP2PDesktopShare>`

EnableProfileProtocol

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを profile: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。profile: プロトコルは、他のアプリケーションから連絡先の [プロファイル（Profile）] 画面を表示します。

- true（デフォルト）：クライアントは profile: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは profile: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableProfileProtocol>false</EnableProfileProtocol>`

EnablePromoteMobile

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber モバイルクライアントを促進するためのユーザ通知が、Cisco Jabber クライアントに表示されるかどうかを指定します。

- true: モバイルクライアントをダウンロードする通知がクライアントに表示されます。
- False (デフォルト): 通知は表示されません。

（注） Cisco Jabber が フル UC モードで展開されている場合、ユーザは、有効にした後に 1 回だけこの通知を受信します。Cisco Jabber が電話専用モードで展開されている場合、そのユーザに対してモバイルデバイスが設定されている場合に限り、通知が表示されます。

ユーザへの通知のデフォルトテキストを変更するには、キー PromotionWelcomeText を設定し、承認する入力値を text と設定します。

また、ダウンロードリンクを変更するには、Android 版では、AndroidDownloadURL パラメータを設定し、iOS 版では、IOSDownloadURL を設定します。デフォルトでは、これらのパラメータは、ユーザを Google Play ストアまたは Apple のアプリストアの Cisco Jabber ダウンロードページにリダイレクトするように設定されています。

例: `<EnablePromoteMobile>false</EnablePromoteMobile>`

```
< PromotionWelcomeText > Android 版 Cisco Jabber アプリをダウンロードします。
</PromotionWelcomeText >
```

```
< AndroidDownloadURL > www.example.com/download </AndroidDownloadURL >
```

```
< IOSDownloadURL > www.example.com/download </IOSDownloadURL >
```

EnableProvisionProtocol

Android 版 Cisco Jabber、iPhone および iPad 版 Cisco Jabber、Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを URL プロビジョニングのプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは URL プロビジョニングのプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは URL プロビジョニングのプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableProvisionProtocol>false</EnableProvisionProtocol>`

[RecordingTone の有効化（EnableRecordingTone）]

すべてのクライアントに適用されます。

ユーザのレコーディング トーンを有効します。このパラメータは、次の他のパラメータ で動作します：LocalRecordingToneVolume、NearEndRecordingToneVolume、RecordingToneInterval。

（注） Jabber のレコーディング トーン パラメータを追加する前に、Unified CM サービス パラメータを有効にしてレコーディング通知トーンを再生します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager* の機能とサービスガイド』の「モニタリングと録音」の章を参照してください。

- true (デフォルト) — レコーディング トーンを有効にします。
- false — レコーディング トーンを無効にします。

例：`<EnableRecordingTone>true</EnableRecordingTone>`

EnableSaveChatToFile

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

また、ユーザは、Webex のローカルアーカイブを (組織管理 > ローカルアーカイブポリシー)、または IM および Presence サーバーのCisco Unified Communications Manager (メッセージ **>** 設定 **>** クライアントでインスタント メッセージ履歴の記録を許可) を有効にする必要があります。

ユーザがチャットを右クリックすると、HTML でファイル システムに保存できるようにします。

- true (デフォルト): ユーザは、チャットをファイルに保存できるようになります。
- false：ユーザは、チャットをファイルに保存できなくなります。

例：`<EnableSaveChatToFile>false</EnableSaveChatToFile>`

EnableShareProtocol

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを share: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。share: URI は、Cisco Jabber を介して他のアプリケーションのファイルやメッセージを連絡先と共有します。

- true（デフォルト）：クライアントは share: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは share: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableShareProtocol>false</EnableShareProtocol>`

EnablesSendLogsViaEmail

モバイル クライアントに適用します。

[問題レポート(Problem reporting)] ウィンドウで **[電子メールで送信 (Send via email)]** ボタンを有効にします。

- true (デフォルト) — ユーザはログを電子メールで送信できます。
- False — ボタンは使用できません。

例： `<EnablesSendLogsViaEmail>True</EnablesSendLogsViaEmail>`

EnableSIPProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを sip: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは sip: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは sip: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableSIPProtocol>false</EnableSIPProtocol>`

EnableSIPURIDialling

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Cisco Jabber で URI ダイヤリングを有効にし、ユーザが URI にコールを発信できるようにします。

- true (デフォルト): ユーザは、URI を使用して通話が可能になります。

（注） リリース 12.6 では、Webex コラボレーションミーティングルームのミーティングコントロールをサポートするために、デフォルト値を 「true」に変更しました。

- false: ユーザは URI を使用して通話できません。

例：`<EnableSIPURIDialling>true</EnableSIPURIDialling>`

EnableStatusProtocol

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを status: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。status: プロトコルは、他のアプリケーションから [プレゼンス（Presence）] または [プレゼンスの編集（Edit Presence）] 画面を表示します。

- true（デフォルト）：クライアントは status: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは status: プロトコルのプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableStatusProtocol>false</EnableStatusProtocol>`

EnableTelephonyProtocolRateLimit

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

テレフォニー プロトコル ハンドラをクライアントで使用する回数に上限があるかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：テレフォニープロトコルハンドラを実行するためのレート制限が有効です。
- false：テレフォニー プロトコル ハンドラを実行するためのレート制限が無効です。

例：`<EnableTelephonyProtocolRateLimit>false</EnableTelephonyProtocolRateLimit>`

EnableTelProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを tel: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは tel: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは tel: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableTelProtocol>false</EnableTelProtocol>`

EnableTelProtocolPopupWindow / CiscoTelProtocolPermissionEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ダイアログボックスを有効にするか無効にするかを指定します。このダイアログボックスは、ユーザが `ciscotel:uri` リンクをクリックした後、Cisco Jabber を使用してコールを発信するかどうかを確認するための情報を提供します。

- true（デフォルト）：ダイアログボックスが有効になり、ユーザはコールの発信を確認するように要求されます。
- false：ダイアログボックスが無効になり、確認を求めることなくコールが発信されます。これは、間違い電話や迷惑電話の原因になる場合があります。

（注） CiscoTelProtocolPermissionEnabled パラメータは EnableTelProtocolPopupWindow パラメータに置き換わります。どちらのパラメータもクライアント内でサポートされますが、どちらかのパラメータが false に設定されるとダイアログボックスが無効になります。

例：`<CiscoTelProtocolPermissionEnabled>false</CiscoTelProtocolPermissionEnabled>`

EnableVideo

Cisco Jabber のビデオ コール中にビデオ機能を有効または無効にします。

- true（デフォルト）：ユーザはビデオ コールを発信したり受信したりできます。
- false：ユーザはビデオ コールを発信したり受信したりできません。

例：`<EnableVideo>false</EnableVideo>`

EnableVoicePush

iPhone および iPad 用 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco jabber が Cisco Jabber が非アクティブであっても、通話中に音声およびビデオプッシュ通知を受信するかどうかを指定します。

自動退席中のタイマーを設定するオプションは、プッシュ通知が有効になっている場合は使用できません。

- true (デフォルト): 通話中の場合は、プッシュ通知が有効になります。
- false: プッシュ通知は無効になります。

例: `<EnableVoicePush>true</EnableVoicePush>`

EnableXMPPProtocol

Android 版 Cisco Jabber、iPhone 版 Cisco Jabber 、iPad 版 Cisco Jabber、および Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを xmpp: URI のプロトコル ハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントは xmpp: URI のプロトコル ハンドラとして登録されます。
- false：クライアントは xmpp: URI のプロトコル ハンドラとして登録されません。

例：`<EnableXMPPProtocol>false</EnableXMPPProtocol>`

FCM_Push_Notification_Enabled

Android 版 Jabberに適用

Jabber が非アクティブな場合でも、新しい通話や IM がある際、クライアントがプッシュ通知を受信するかどうかを指定します。

（注） プッシュ通知を有効にしている場合、自動離脱タイマーを設定することはできません。

- true (デフォルト) — 新しい通話や IM についてプッシュ通知が有効化されます。
- false: プッシュ通知は無効になります。

例：`<FCM_Push_Notification_Enabled>false</FCM_Push_Notification_Enabled>`

ForceC2XDirectoryResolution

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが click-to-x アクションを実行したときに、連絡先情報を解決するためにクライアントがディレクトリのクエリーを実行するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：ユーザが click-to-x アクションを実行したときに、クライアントはディレクトリのクエリーを実行します。
- false：click-to-x アクションが実行されても、クライアントはディレクトリのクエリーを実行しません。

（注） このパラメータは、ユーザが Expressway for Mobile and Remote Access 経由で社内ネットワークに接続している場合は効果がありません。この場合は、UDS が連絡先を解決し、クライアントがディレクトリを照会できません。

例：`<ForceC2XDirectoryResolution>false</ForceC2XDirectoryResolution>`

ForceDevicePin

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは、Jabber の実行をセキュアなデバイス上に限ることを指定します。ForceDevicePin パラメータには、次の値を設定します。

- false (デフォルト): Jabberは、ユーザがデバイスを保護したかどうかを確認しません。
- true：Jabberは、ユーザーがデバイスを保護したかどうかを確認します。

例：

```
<ForceDevicePin>false</ForceDevicePin>
```

ForceFontSmoothing

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントがスムーズテキストにアンチエイリアシングを適用するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントがテキストにアンチエイリアスを適用します。
- false：オペレーティング システムがテキストにアンチエイリアスを適用します。

例：`<ForceFontSmoothing>false</ForceFontSmoothing>`

ForceUpgradingOnMobile

* Android 版 Cisco Jabberに適用されます。

管理者は、このパラメータを使用して、最新バージョンへのアップグレードを強制することができます。

- true: 新しいクライアントが定期的なチェックで検出された場合は、Android の**即時のアプリ内アップグレード**を開始して、強制的にアップグレードします。
- false (デフォルト): 新しいクライアントが使用可能でも、アップグレードを強制しません。

（注） また 、BlockVersionBelowを使用して、ユーザが指定されたリリースより前のクライアントにログインすることを阻止することもできます。BlockVersionBelowは、ユーザがデバイス上で autoupgrading を無効にできるようにする BYOD 展開でより効果的です。

例: `<ForceUpgradingOnMobile>true</ForceUpgradingOnMobile>`

Inactive_Connection_Activation_Timer

すべてのクライアントに適用されます。

接続アクティベーション信号を待機する時間 (秒)。デフォルトは 120 です。

例：`<Inactive_Connection_Activation_Timer>60</Inactive_Connection_Activation_Timer>`

InitialPhoneSelection

クライアント初回起動時のユーザの電話タイプを設定します。クライアントの初回起動後、ユーザは電話タイプを変更できます。クライアントはユーザ設定を保存し、次回の起動時にその設定を使用します。

- deskphone：コールにデスクフォン デバイスを使用します。
- softphone（デフォルト）：コールにソフトフォン（CSF）デバイスを使用します。

クライアントは次の順序でデバイスを選択します。

1. ソフトフォン デバイス
2. デスクの電話機

ユーザにソフトフォン デバイスを提供しない場合、クライアントはデスクフォン デバイスを自動的に選択します。

例：`<InitialPhoneSelection>deskphone</InitialPhoneSelection>`

（注） このパラメータは、仮想環境で展開される Jabber には適用されません。

InstantMessageLabels

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

インスタントメッセージを送信する前にユーザが適用すべき、SECRET や CONFIDENTIAL などのセキュリティラベルのカタログを定義します。ラベルは、送信されるメッセージの前に表示されます。たとえば、「SECRET: メッセージテキスト」のように表示されます。

最大 17 のラベルを指定できます。

Cisco Jabber は、XEP-0258 規格を使用してセキュリティラベルを実装します。詳細については、『*XEP-0258: Security Labels in XMPP*』を参照してください。

Cisco Jabber はこれらのラベルに基づいてメッセージ配信を制御しません。このような制御には、コンプライアンスサーバなどの XEP-0258 ラベルヘッダーをサポートするサードパーティ製品を使用する必要があります。

セキュリティ ラベルの `jabber-config.xml` の例：

```
<InstantMessageLabels>
  <item selector="Classified|SECRET">
    <securitylabel xmlns='urn:xmpp: sec-label:0'>
     <displaymarking fgcolor='black' bgcolor='red'>SECRET </displaymarking>
      <label>
       <edhAttrs xmlns="https://www.surevine.com/protocol/xmpp/edh">
       <specification>2.0.2</specification>
       <version>XXXX:1.0.0</version>
       <policyRef></policyRef>
       <originator>Acme</originator>
       <custodian>Acme</custodian>
       <classification>A</classification>
       <nationalities>Acme</nationalities>
       <organisations>Acme</organisations>
       </edhAttrs>
     </label>
    </securitylabel>
  </item>
<item…> … </item>
</InstantMessageLabels>
```

InvalidCredentialsLogout

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

InvalidCredentialsLogout が <value>true</value> に設定されていると、クライアントが非 SSO クレデンシャルで期限切れのトークンをチェックします。トークンの有効期限が切れた場合、ユーザはサインアウトされ、再認証を求められます。許容される値は次のとおりです。

- true — Jabber は有効期限切れのトークンをチェックします。

- false (デフォルト)— Jabber は有効期限切れのトークンをチェックしません。

例：`<InvalidCredentialsLogout>true</InvalidCredentialsLogout>`

LegacyOAuthLogout

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

展開で、OAuth が有効の場合、Jabber は、ユーザがサインインする際、デフォルトで有効期限切れのリフレッシュトークンをチェックします。リフレッシュトークンの有効期限が切れている場合は、イーサネットはユーザー再認証する必要があります。ユーザーがサインインしている間に更新トークンの有効期限が切れると、Jabber はセッションが期限切れになったというメッセージでログアウトします。

LegacyOAuthLogout パラメーターは、この動作を制御します。使用できる値は次のとおりです。

- true: Jabber は有効期限切れのリフレッシュトークンをチェックしません。
- false (デフォルト): Jabber は有効期限切れのリフレッシュトークンをチェックします。

例: `<LegacyOAuthLogout>true</LegacyOAuthLogout>`

LocalRecordingToneVolume

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントがレコーディング トーンをローカルで再生する音量を指定します。

範囲は 0 ～ 100% で、デフォルトは 10 です。

例：`<LocalRecordingToneVolume>25</LocalRecordingToneVolume>`

レコーディング トーンの適切な設定の詳細については、EnableRecordingTone を参照してください。

LogWritingDesktop

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ログをデスクトップ クライアントのディスクに書き込むかどうかを指定して、PRT ロギングのセキュリティ レベルを定義します。

- Always (デフォルト): ログは常に DEBUG レベルでディスクに書き込まれます。クライアントの**ヘルプ**メニューにオプションは表示されません。
- UserCanEnable：ログをディスクに書き込むかどうかをユーザが設定できます。この値を設定すると、ユーザが有効化または無効化できる **詳細なログ** オプションが、クライアント

の**ヘルプ**メニューに表示されます。有効にすると、DEBUG レベルのログが作成され、無効にした場合は INFO レベルのログが作成されます。

- Never: ディスクにログは書き込まれず、INFO レベルのログが作成されます。PRT を手動で生成する場合は、内部メモリのログが一時ファイルに書き込まれます。この一時ファイルは、PRT の生成後に削除されます。

例: `<LogWritingDesktop>UserCanEnable</LogWritingDesktop>`

INFO レベルのログの場合、ログはメモリ内バッファーにのみ循環して保存されます。

DEBUG レベルのログの場合、メモリ内バッファーがいっぱいになるとディスクに書き込まれます。Jabber をリセットすると、ディスク上のすべてのログが消去されます。

LogWritingMobile

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Jabber がモバイルクライアントのログをディスクに書き込むかどうかを指定することにより、PRT ログのセキュリティレベルを定義します。

- Always (デフォルト): Jabber は常に INFO レベルでディスクにログを書き込みます。クライアントの**ヘルプ**メニューにオプションは表示されません。
- UserCanEnable: ディスクにログを書き込むかどうかを決定できます。この値を設定する**詳細なログ**オプションが、クライアントの**ヘルプ**メニューに表示されます。詳細なログを有効または無効にすることができます。有効にすると、DEBUG レベルのログが作成されます。無効にした場合は、INFO レベルのログが作成されます。
- Never: Jabber はディスクにログを書き込みません。この設定では、INFO レベルのログが作成されます。PRT を手動で生成すると、Jabber はメモリ内のログを一時ファイルに書き込み、PRT 生成後にファイルを削除します。

例：`<LogWritingMobile>UserCanEnable</LogWritingMobile>`

INFO レベルのログの場合、ログはメモリ内バッファーにのみ循環して保存されます。

DEBUG レベルのログの場合、Jabber はメモリ内バッファーがいっぱいになるとディスクに書き込みます。Jabber をリセットすると、ディスク上のすべてのログが消去されます。

MaxNumberOfFilesDesktop

デスクトップ クライアント版 Cisco Jabber に適用

Jabber 問題のレポートの最大数を指定します。デフォルトでは、デスクトップクライアントは 10 を許可しています。

例：

```
<MaxNumberOfFilesDesktop>30</MaxNumberOfFilesDesktop>
```

MaxNumberOfFilesMobile

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Jabber 問題のレポートの最大数を指定します。デフォルトは 5(50 MB) です。

例：

```
<MaxNumberOfFilesMobile>20</MaxNumberOfFilesMobile>
```

Meetings_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアント内でのミーティング機能の有効化CalendarIntegrationTypeパラメータ (Windows) および **MacCalendarIntegrationType** パラメータ (Mac) は、連携して動作します。

- true（デフォルト）：ミーティング機能を有効にし、ミーティングの作成およびミーティング参加のリマインダの受け取りを可能にします。
- false：ミーティング機能を無効にします。

例：`<Meetings_Enabled>false</Meetings_Enabled>`

MuteAudioByDefault

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

すべての Jabber での通話で、マイクを自動的にミュートするかを指定します。

- False (デフォルト): ユーザのマイクは、Jabber の通話でミュートになりません。
- true: ユーザのマイクが、Jabber の通話でミュートになります。

例: `< MuteAudioByDefault >`*`true`*`< > muteaudiobydefault`

NearEndRecordingToneVolume

すべてのクライアントに適用されます。

Jabber がリモート デバイスおよび近端レコーディング サーバに送信するレコーディング トーンの音量を指定します。

範囲は 0 ～ 100% で、デフォルトは 10 です。

例：`<NearEndRecordingToneVolume>25</NearEndRecordingToneVolume>`

録音トーンの適切な設定の詳細については、EnableRecordingTone を参照してください。

Prefer_BIB_Recorder

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Unified Communications Manager リリース 12.5(1)以降の展開では、Jabber は、Jabber の Built-In Bridge (BiB) を使い Unified CM のオンデマンド録音をサポートしています。デフォルトでは、ユーザが、外部ブリッジを使用して通話を録音するように設定されている会議通話に参加すると、Jabber はその外部ブリッジを使用して録音を行います。

一部の組織では、コンプライアンス上の理由で、この Jabber BiB を使用してすべての録音を希望する場合があります。このような使用例では、Prefer_BIB_Recorder パラメータを使用して Jabber BiB での録音をエンフォーサします。使用できる値は次のとおりです。

- true: すべての通話でJabber BiB レコーダーを使用します。
- false (デフォルト): 可能な場合は、外部ブリッジで録音します。

例: `<Prefer_BIB_Recorder>true</Prefer_BIB_Recorder>`

PresenceProtocolRateLimit

Synergy デバイスの Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが他のアプリケーションから [プレゼンス（Presence）] または [プレゼンスの編集（Edit Presence）] 画面を起動できる回数を指定します。たとえば、PresenceProtocolRateLimit が 3 回で、PresenceProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは、15 秒ごとに 3 回、他のアプリケーションから [プレゼンス（Presence）] または [プレゼンスの編集（Edit Presence）] 画面の起動を開始できます。

1 ～ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例：`<PresenceProtocolRateLimit>10</PresenceProtocolRateLimit>`

PresenceProtocolTimeLimit

Synergy デバイスの Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが他のアプリケーションから [プレゼンス（Presence）] または [プレゼンスの編集（Edit Presence）] 画面を起動できる制限時間を指定します。1 ～ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例：`<PresenceProtocolTimeLimit>5</PresenceProtocolTimeLimit>`

PreventDeclineOnHuntCall

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ハント グループに着信コールがあった場合に、[拒否(Decline)] ボタンを表示するかどうかを指定します。

- true：ハント グループの着信コールに対して [拒否（Decline）] ボタンは表示されません。
- false（デフォルト）：[拒否（Decline）] ボタンがハント グループの着信コールで表示されます。

例：`<PreventDeclineOnHuntCall>true</PreventDeclineOnHuntCall>`

PrintIMEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがチャット ウィンドウの会話を印刷できるようにするかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：右クリックして [印刷（Print）] を選択することで、チャット ウィンドウの会話を印刷できます。
- false：ユーザはチャット ウィンドウの会話を印刷できません。ウィンドウ内を右クリックしても、メニューに **[印刷（Print）]** オプションは表示されません。

例：`<PrintIMEnabled>false</PrintIMEnabled>`

ProfileProtocolRateLimit

Synergy デバイスの Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが他のアプリケーションから連絡先の [プロファイル（Profile）] 画面を起動できる回数を指定します。たとえば、ProfileProtocolRateLimit が 3 回で、ProfileProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは、15 秒ごとに 3 回、他のアプリケーションから連絡先の [プロファイル（Profile）] 画面の起動を開始できます。

1 ～ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例：`<ProfileProtocolRateLimit>10</ProfileProtocolRateLimit>`

ProfileProtocolTimeLimit

Synergy デバイスの Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが他のアプリケーションから連絡先の [プロファイル（Profile）] 画面を起動できる制限時間を指定します。1 ～ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例：`<ProfileProtocolTimeLimit>10</ProfileProtocolTimeLimit>`

ProvisionProtocolRateLimit

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

URL プロビジョニングを開始できる回数を指定します。

たとえば、ProvisionProtocolRateLimit が 3 回で、ProvisionProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは、15 秒ごとに 3 回、URL プロビジョニングにより Cisco Jabber を起動できます。

1 ～ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例：`<ProvisionProtocolRateLimit>10</ProvisionProtocolRateLimit>`

ProvisionProtocolTimeLimit

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

URL プロビジョニング プロトコルを開始できる制限時間を指定します。1 ～ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例：`<ProvisionProtocolTimeLimit>10</ProvisionProtocolTimeLimit>`

Push_Notification_Enabled

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber が Cisco Jabber が非アクティブであっても、新しい IM 通知がある場合に、Cisco Jabber がプッシュ通知を受信するかどうかを指定します。

自動退席中のタイマーを設定するオプションは、プッシュ通知が有効になっている場合は使用できません。

- true (デフォルト): 新しい IM がある場合は、プッシュ通知が有効になります。
- false: プッシュ通知は無効になります。

例: `<Push_Notification_Enabled>false</Push_Notification_Enabled`

Recent_Chats_Enabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

[ハブ（Hub）] ウィンドウの [チャット（Chat）] タブを使用可能とするかを指定します。このパラメータは電話専用の展開では使用できません。

- true（デフォルト）：[ハブ（Hub）] ウィンドウに [チャット（Chat）] タブを表示します。
- false：[ハブ（Hub）] ウィンドウに [チャット（Chat）] タブを表示しません。

例：`<Recent_Chats_Enabled>false</Recent_Chats_Enabled>`

RecordingToneInterval

すべてのクライアントに適用されます。

連続トーン間のミリ秒を指定します。

範囲は 8000 ～ 32000 で、デフォルトは 11500 です。

例：`<RecordingToneInterval>true</RecordingToneInterval>`

レコーディング トーンの適切な設定の詳細については、EnableRecordingTone を参照してください。

RememberChatList

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Jabber を再起動した後に、ユーザのチャットリストを保存して復元するかどうかを指定します。

- On (デフォルト): パラメータを *on*として設定するか、または空欄のままにすると、Jabber を再起動した後に、ユーザのチャットリストが保存され、復元されます。またクライアントでは、**チャットリストを保存** オプションも使用できます。
- off: ユーザのチャットリストは保存されず、クライアントでは、**チャットリストを保存** オプションを使用できません。

例：

```
<RememberChatList>on</RememberChatList>
```

RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

複数のデバイスを使用するユーザが、リモート接続先を編集または追加できるかどうかを決定できます。詳細については、*On-Premises Deployment for Cisco Jabber* のチャプター *Configure Extend and Connect* を参照してください。

- true （デフォルト）：複数のデバイスを使用するユーザが、リモート接続先を編集または追加できます。
- false：複数のデバイスを使用するユーザが、リモート接続先を編集または追加できません。

例：
<RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices>false</RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices>

RemotePRTServer

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

管理者が Unified CM 管理の**電話**一覧からログを生成するときに、PRT ログをサーバにアップロードするためのスクリプトを指定し ます。

例: <RemotePRTServer> http://*server path*/UploadZIP.php</RemotePRTServer>

SaveLogToLocal

モバイル クライアントに適用します。

[問題レポート(Problem reporting)] ウィンドウで **[ログ送信先 (Send log to)]** ボタンを 有効にします。

- true (デフォルト) — ユーザはログを保存できます。
- False — ボタンは使用できません。

例： <SaveLogToLocal>True</SaveLogToLocal>

ScreenShareAuditMessages

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber クライアントが、コンプライアンスおよび監査の目的ですべてのユーザアクションに関する情報を プレゼンス サーバに送信できるようにします。

（注） アクティブな準拠サーバもある場合は、プレゼンスサーバが情報をコンプライアンスサーバに送信します。

- true：Jabber は、IM 限定画面共有中のユーザ アクションに関する情報をプレゼンス サーバに送信します。
- false（デフォルト）：Jabber は、IM 限定画面共有中のユーザ アクションに関する情報をプレゼンス サーバに送信しません。

（注） この機能を有効にするには、稼働しているすべての Jabbber クライアントがリリース 11.0(1) 以上であることを確認します。11.0(1)以前のクライアントの場合、IM 限定画面共有中に収集された情報が、インスタント メッセージとしてクライアントに送信されます。

例：`<ScreenShareAuditMessages>true</ScreenShareAuditMessages>`

selfcareURL

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Unified Communications Manager サービスの完全修飾ドメイン名（FQDN）を指定します。

Cisco Unified Communications Manager でデフォルトのサービス プロファイルが選択されなかった場合のセルフケア ポータルの URL を定義します。

例：`<selfcareURL>http://server_name/selfcareURL</selfcareURL>`

SelfMuteTone

Windows 版 Cisco Jabber および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがマイクをミュートまたはミュート解除した場合に、Jabber が音声トナーを再生するかどうかを決定します。このトナーは、ユーザ自身だけが聞くことができ、通話または会議の他の参加者は聞くことができません。

- true (デフォルト): ユーザがマイクをミュートまたはミュート解除すると、トナーが再生されます。
- [偽 (false) (false): ユーザがマイクをミュートまたはミュート解除してもトナーは再生されません。

```
<SelfMuteTone>false</SelfMuteTone>
```

ServiceDiscoveryExcludedServices

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

サービス ディスカバリから特定のサービスを除外するかどうかを指定します。

- WEBEX：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
  - CAS 検索を実行しません。
  - `_cisco-uds`、`_cuplogin`、`_collab-edge` を検索します。
- CUCM：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。

- _cisco_uds を検索しません。
- _cuplogin、_collab-edge を検索します。

カンマで区切った複数の値を指定して、複数のサービスを除外できます。

例：`<ServiceDiscoveryExcludedServices> WEBEX,CUCM </ServiceDiscoveryExcludedServices>`

ServicesDomainSsoEmailPrompt

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザのホーム クラスタを決定する際に、ユーザに対して電子メール プロンプトを表示するかどうかを指定します。

- ON：プロンプトが表示されます。
- OFF（デフォルト）：プロンプトは表示されません。

例：`<ServicesDomainSsoEmailPrompt>ON</ServicesDomainSsoEmailPrompt>`

SharePortRangeSize

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

SharePortRangeStart パラメータと一緒に使用された場合にポート範囲のサイズを指定します。最小値は 40 です。デフォルトは 16383 です。SharePortRangeStart パラメータに加算されたときの値は 65535 を超えることができません。

ポート範囲の詳細については、『*Planning Guide for Cisco Jabber*』の「*Ports and Protocols*」のトピックを参照してください。

例：

```
<Policies>
<SharePortRangeStart>45130</SharePortRangeStart>
<SharePortRangeSize>100</SharePortRangeSize>
</Policies>
```

SharePortRangeStart

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは、ユーザがチャット ウィンドウから画面を共有するときに使用するポート範囲を指定する SharePortRangeSize と一緒に使用します。

これらのパラメータを設定しなかった場合は、クライアントがIM画面共有のデフォルトのポート範囲（49152 ～ 65535）を使用します。デフォルト ポート範囲の詳細については、『*Cisco Jabber Planning Guide*』の「*Ports and Protocols*」のトピックを参照してください。

ユーザが入力した値によって、ポート範囲の先頭が指定されます。最小値は1024です。65535 - SharePortRangeSize を超える値は指定できません。

例：

```
<Policies>
<SharePortRangeStart>45130</SharePortRangeStart>
<SharePortRangeSize>100</SharePortRangeSize>
</Policies>
```

この例では、ポート範囲 45130～45230 が設定されます。

ShareProtocolRateLimit

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ファイルまたはメッセージの共有を開始できる回数を指定します。たとえば、ShareProtocolRateLimit が 3 で ShareProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザは 15 秒の間に 3 回まで Cisco Jabber によるファイルまたはメッセージの共有を開始できます。

1 ～ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例：`<ShareProtocolRateLimit>10</ShareProtocolRateLimit>`

ShareProtocolTimeLimit

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ファイルまたはメッセージの共有を開始できる制限時間を指定します。1 ～ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例：`<ShareProtocolTimeLimit>10</ShareProtocolTimeLimit>`

ShowSelfCarePortal

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

[オプション（Options）] ダイアログに [セルフケアポータル（Self Care Portal）] タブを表示するか指定します。

- true（デフォルト）：[オプション（Options）] ダイアログに [セルフケアポータル（Self Care Portal）] タブを表示します。
- false：[オプション（Options）] ダイアログに [セルフケアポータル（Self Care Portal）] タブを表示しません。

例：`<ShowSelfCarePortal>false</ShowSelfCarePortal>`

SoftPhoneModeWindowBehavior

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがソフトフォン制御モードでコールに応答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- OnVideo：[会話（Conversation）] ウィンドウはビデオ コールに対してのみ表示されます。
- OnCall（デフォルト）：コールへの応答時に常に [会話（Conversation）] ウィンドウが表示されます。
- Never：コールへの応答時に [会話（Conversation）] ウィンドウは表示されません。

例：`<SoftPhoneModeWindowBehavior>Never</SoftPhoneModeWindowBehavior>`

TelemetryCustomerID

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

分析情報の送信元を指定します。これは、個々のお客様を明示的に識別する文字列またはお客様を識別することなく共通送信元を識別するう文字列です。Global Unique Identifier（GUID）生成ユーティリティを使用して、36 文字の一意の ID を生成するか、逆ドメイン名を使用することをお勧めします。次のユーティリティで GUID を生成できます。

- Mac OS X：uuidgen
- Linux：uuidgen
- Microsoft Windows：[guid]::NewGuid().ToString() または（cmd.exe から）powershell -command "[guid]::NewGuid().ToString()"
- オンライン：guid.us

GUID を生成する際に使用した方法には関係なく、この識別子はグローバルに一意である必要があります。

例：`<TelemetryCustomerID>`*`customerIdentifier`*`</TelemetryCustomerID>`

TelemetryEnabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Cisco Jabber クライアントが分析データを収集するかどうかを指定します。ユーザ エクスペリエンスと製品パフォーマンスを向上させるために、Cisco Jabber クライアントは分析データを収集することがあります。

- true（デフォルト）：分析データが収集されます。

- false：分析データは収集されません。

例：`<TelemetryEnabled>false</TelemetryEnabled>`

TelemetryEnabledOverCellularData

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

分析データを Wi-Fi 経由で送信するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：分析データが Wi-Fi とモバイル データ接続経由で送信されます。
- false：分析データは Wi-Fi 接続経由でのみ送信されます。

例：`<TelemetryEnabledOverCellularData>false</TelemetryEnabledOverCellularData>`

Telephony_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントで音声およびビデオ機能とユーザ インターフェイスを有効にします。

- true（デフォルト）：音声およびビデオ機能とユーザ インターフェイスを有効にします。
- false：音声およびビデオ機能とユーザ インターフェイスを無効にします。

クライアントが IM 専用モードに対して有効になっている場合は、このパラメータを false に設定します。IM 限定モード展開でこのパラメータを設定しない場合、ユーザ インターフェイスではテレフォニー機能が無効であると表示される場合があります。

例：`<Telephony_Enabled>false</Telephony_Enabled>`

TelephonyProtocolRateLimit

Windows 版 Cisco Jabber、Mac 版 Cisco Jabber および Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

テレフォニー プロトコル ハンドラ（tel、ciscotel、sip）のいずれかからコールを開始できる回数を指定します。たとえば、TelephonyProtocolRateLimit が 2 で、TelephonyProtocolTimeLimit が 10 秒の場合、ユーザは、10 秒ごとに 2 回、テレフォニー プロトコル ハンドラのいずれかからコールを開始できます。

1 ～ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 2 です。

（注） 同時に 1 つのプロトコル ハンドラのみを処理できます。ユーザがすでにコール アラートを受信している場合、着信した他のプロトコル ハンドラは破棄されるかキューに収容されます。

例：`<TelephonyProtocolRateLimit>10</TelephonyProtocolRateLimit>`

TelephonyProtocolTimeLimit

Windows 版 Cisco Jabber、Mac 版 Cisco Jabber および Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

TelephonyProtocolRateLimit がヒットまたはリセットされる前に、ユーザがテレフォニー プロトコル ハンドラ（sip、tel、ciscotel）のいずれかからコールを開始できる制限時間を指定します。テレフォニー プロトコル ハンドラのいずれかからコールを開始するまでの時間のデフォルト値は、2 回の試行ごとに 10 秒です。1 ～ 300 秒までの値を設定できます。

例：`<TelephonyProtocolTimeLimit>10</TelephonyProtocolTimeLimit>`

UserDefinedRemoteDestinations

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザはクライアントインターフェイスからリモートの接続先を追加、編集、および削除できます。拡張機能と接続機能を提供するときに、このパラメータを使用して、デフォルトの動作を変更できます。

デフォルトでは、ユーザのデバイス リストに CTI リモート デバイスしかない場合、クライアントではユーザがリモートの接続先を追加、編集、削除できません。これは、ユーザが割り当てられた専用リモートデバイスを修正できないようにするためです。ただし、ユーザのデバイス リストにソフトフォン デバイスまたはデスクフォン デバイスが含まれる場合、クライアントはユーザがリモート接続先を追加、編集、および削除できるようにします。

- true：ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できます。
- false（デフォルト）：ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できません。

例：`<UserDefinedRemoteDestinations>true</UserDefinedRemoteDestinations>`

UserEnabledDetailedLogging

モバイル クライアントに適用します。

[問題レポート(Problem reporting)] ウィンドウで **[詳細ロギング (Detailed logging)]** オプションを 有効にします。

- true — ユーザは詳細なロギングを選択できます。
- false (デフォルト) — オプションは使用できません。

例： `<UserEnabledDetailedLogging>True</UserEnabledDetailedLogging>`

Voicemail_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントでボイスメール機能とユーザ インターフェイスを有効にします。

- true（デフォルト）：ボイスメール機能とユーザ インターフェイスを有効にします。
- false：ボイスメール機能とユーザ インターフェイスを無効にします。

例：`<Voicemail_Enabled>false</Voicemail_Enabled>`

VoiceServicesDomain

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

_collab-edge と *_cisco-uds* の DNS SRV レコードを設定する DNS ドメインを表す完全修飾ドメイン名を指定します。

例：次のような DNS SRV レコードがある場合

- `_collab-edge`._tls.voice.example.com
- `_cisco-uds`._tcp.voice.example.com

VoiceServicesDomain の値は *voice.example.com* になります。

（注） 音声サービス ドメインがサインイン アカウント ドメインと同じ場合は、このパラメータを MRA に対して設定しないでください。MRA を使用した展開の場合は、ドメインが異なる場合のみこのパラメータを設定してください。

WhitelistBot

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

WhitelistBot にリストされるボットのみが、グループチャット、電話会議、インスタント ミーティングに参加できます。WhitelistBot の設定パラメータが定義されていない場合は、デフォルト値は、AdminConfiguredBot で定義した JID となります。

Cisco Jabber では、* 特殊文字のように、WhitelistBot の正規表現を使用できます。たとえば、「*」はクライアントからくる「robot-type」メッセージを開くか、{bot}*{@cisco.com} は、bot1@cisco.com や bot_thisworks@cisco.comなど、bot で始まる JID をホワイトリストします。

例:`<WhitelistBot>bot1@example.com;bot2@example.com;bot3@example.com</WhitelistBot>`